

# 台湾向け来春から輸出

## 消炎鎮痛剤薬局に供給

### ジャパンメディック

医薬品製造のジャパンメディック（富山市横越、前田康博社長）は、台湾向けの輸出に乗り出す。今月、台湾政府当局から認可を受けたことに伴い、来春にも現地の薬局・薬店向けに消炎鎮痛剤の出荷を開始する。同社としては初の海外販売で、今後は他の商品も投入する予定。将来的にはアジア地域などで販売エリアを拡大したいとしている。

日本に観光に訪れる人が増えている台湾では日本製の医薬品需要が高まっていることから、市場参入を決めた。現地の薬局・薬店を通じて薬局・薬店に供給する。これまで大手メーカー向けにOEM（相手先

ブランドによる生産）した商品が輸出された実績はあるが、自社商品の輸出は初めて。

輸出する消炎鎮痛剤はサリチル酸グリコールを有効成分とし、肩こりや腰痛、筋肉痛などの患部に塗って使用する。日本でも主に高齢者向けに販売している。

市場での売り上げは3年後に1億円を目指す。中国やタイ、マレーシアなどにも販路を広げることが検討しており、海外市場を開拓し、人口減による国内市場の縮小に対応する。

輸出する消炎鎮痛剤はサリチル酸グリコールを有効成分とし、肩こりや腰痛、筋肉痛

同社の売上高は2016年2月期で20億円。今後は主力のかゆみ止めの塗り薬なども台湾に輸出する方針で、台湾

市場での売り上げは3年後に1億円を目指す。中国やタイ、マレーシアなどにも販路を広げることが検討しており、海外市場を開拓し、人口減による国内市場の縮小に対応する。

同社の売上高は2016年2月期で20億円。今後は主力のかゆみ止めの塗り薬なども台湾に輸出する方針で、台湾